

令和3年度 徳島県立近代美術館協議会 会議録

1 日時 令和3年10月27日(水) 13:30～15:30

2 場所 徳島県立近代美術館講座室

3 出席者

〔委員〕 10名中8名出席

4 会議次第

① 開 会

② 館長挨拶

③ 委員紹介・職員紹介

④ 議 事

(1) 委員長・副委員長の選任について

(2) 令和2年度事業実施状況について

(3) 令和3年度組織・予算及び事業概要について

(4) 中期計画・中期目標について

(5) その他

⑤ 閉 会

5 会議概要

①委員長・副委員長の選任について

委員長に岡山委員を、副委員長に結城委員を選任

②令和2年度事業実施状況並びに令和3年度組織・予算及び事業概要について

事務局から説明

③質疑応答

委員

コロナ禍の中での運営は大変なご苦勞があったと思う。中止になったものもあったが、オンライン研修など様々な催しを企画しておられ、ご苦勞がたくさんあったと思う。このような状況で入館者数の減少もやむを得ないと思う。

不要不急の外出を控えるよう言われる中、美術館に来ることは危険なことではないと思うが、一般の方は判断に迷う中で在宅にしようということになると思う。5月中旬からは学校でもクラスターが起こっている状況であり、休館はやむを得なかったと思う。9月末解除になるまでは大変だったと思う。

そのような中、学校連携や出前授業も出来ていない状況とお聞きしたが、いつ頃再開されるのか、どのような状況になったら再開されるのか教えていただ

	<p>きたい。</p>
事務局	<p>9月までは出来ていなかったが、9月後半から多くなり、10月からは連日のように遠足に来てくださっている。今日も市内の大規模校から250人余りの見学と市内のこども園から3歳児の子供たちが見学に来てくれた。</p> <p>ただ、コロナ禍で密を避けるため、これまで行っていた説明に替えて、グループ活動やセルフガイドを持って楽しめる工夫などを行っており、これまで以上に先生方と密に連携し、活動内容を相談させていただいて、子供たちが美術館の展示室で十分に作品を楽しめるような工夫、努力をしている。</p> <p>出前授業も問合せが増えてきている中、状況を見ながら進めており、11月から2校の予定が入っている。これまでとは違う工夫が必要となるが、先生方はじめ学校と相談しながらやっていきたいと考えている。</p>
委員	<p>コロナ禍の中、いろいろ苦心、苦勞をして工夫して県民の皆様楽しんでいただけるような企画を考えられているのがよくわかった。</p> <p>ユニバーサルを掲げておられ、SDGsについて考えていかれるということだが、共通しているのは誰一人取り残さないことだと思う。</p> <p>一番にはたくさんの子供たち向けの企画とか遠足等の受け入れもあるが、コロナ禍の中で難しかった高齢者への普及、オンライン、出前で交流を図ること。事前配布してオンラインで楽しんでもらうような取り組みが出来ないか。</p> <p>あと、子ども食堂ネットワークとの連携を考えたいただけたらいいと思う。まだまだ美術館の楽しさわくわく感を体験していただきたい方がいるのではないかと思う。</p> <p>美術館を知ってもらうために、県の方では、子育てと両立しやすい企業を認証する制度やチーム育児の応援企業の募集などの事業が行われているが、そういったところに招待券を送って足を運んでもらい知っていただくということが出来ないか。</p> <p>また、音声ガイドには非常に感銘した。視覚障害者の方にとって、またそうでない方でも楽しめる新たな美術館の楽しみ方だと感じたので広めていただきたい。</p> <p>外国人、技能実習生の方、LGBTの方への発信もユニバーサルデザインの一貫として取り組んでいただけるといいと思う。</p>
事務局	<p>オンラインは2年取り組んでいるが、初めは家では本物を見ることは出来ないなか、展示室でやっているトークを中継するとか何を出したら役に立つだろうというような意識から始めていたが、だんだん長らく来てもらえない人のことを考えるなどこちらの意識も変わっていった。</p> <p>今取り組んでいるのは「トイレのマップ」。これまで出せてなかったが、もう一度画像とか地図とか、言語も含めて基礎的な発信をしていきたいと考えている。</p>

	<p>デジタルものについても、いつでも見られるものを数だけ増やそうというのではなく、家で見てもこんなにリアルでおもしろいと思えるように企画の考え方の変化を感じながら取り組んでいる。</p> <p>音声だけの鑑賞は、視覚障がい者に向けてというだけでなく、音声だけで出来たらというのが出発点。音声だけだと著作権不要のメリットがある。たとえばピカソの解説を出せるといったメリットがある。視覚的なものを聴覚だけでというおもしろさ、チャレンジ性があり、我々も原稿を書くときに勉強になっている。</p>
委員	<p>クラウドファンディングで素敵な作品を購入された。予算がなかなか難しい状況の中、また新しい試みで一つ乗り越えられた。私も一県民として参加しようとしたが、カード決済しないので出来なかった。今後、こういった手続きが苦手な人のための方策も検討をお願いしたい。</p> <p>また、過去に優れたものもたくさんあって、この春各学年の生徒に対して、前回来たときにいただいて帰ったシートを使って授業をした。新しい指導要領になり「深い学び」というのがテーマとなっているが、それにぴったりだと感じた。「自分との対話」「他者との対話」というのが落とし込まれている。是非今後も過去の良いものも活用されたら良いと思った。</p>
事務局	<p>クラウドファンディングは郵便局の振り込みということでわかりづらかったかもしれない。サイトによっていろいろな手法がある。また、タイミング的に本年度はパラリンピックの期間に展示できればということがあり、4月の早い段階から限られた期間や制約の中、模索しながらおこなった。</p> <p>幸いにして目標を達成したが、予算の制約があったからということではなく新たな挑戦として取り組んだところ。今回のことを十分整理して一つの方法として検討していきたい。</p>
委員	<p>児童発達支援及び放課後等デイサービス「愛ちゃん家」に勤めており、未就学児から小学生、中学生が来ている。利用者は発達障がいの者がほとんどで、保護者も近代美術館のことを知らない方がほとんど。</p> <p>保護者が連れてきても走り出す、大声出すことがあるが、それも表現の一つとして保護者に伝えた。こちらへ連れてくるために保護者の了解を得ようとすると反応はまちまち。</p> <p>コロナ禍で外出が難しいが、子供が今しかできない体験をさせたい。</p>
委員	<p>コロナ禍で制限が多い中、努力されていることがよくわかった。デジタルアーカイブのことが記載されていたが、所蔵作品の何割くらい出されているのか、どういう方針で運営されているのか。</p>
事務局	<p>デジタルアーカイブと文字情報は、全所蔵品にしていて、解説の文字、音声</p>

のようなものも積極的に発信しているが、文化の森全体で各館の資料をデジタル化していこうという事業がはじまっており、美術館は著作権の問題もあり、予算的に難しいところもある。

ただ、非常に高精細画像を間近で見ることが出来るという可能性を感じており、手始めに美術館でやっているのは暗くて、近くで見れない日本画を中心に徳島ゆかりの徳島でしかじっくり親しんでもらうことが出来ないものを積極的にデジタル化して、単なる資料の公開と言うよりは、作品の良さをみてもらうというところに力点をおいて、展示室では出来ないところに、美術鑑賞にまだまだ楽しさとかきっかけがないという人にも見てもらえるようないろいろな可能性はあるのではないかと思っている。

作品の良さを知ってもらうというところに、まずは力点をおいて、数は毎年の使える予算の中でやっている。

ただ、12月にユニバーサルミュージアム展をするが、作品に近寄っていきにくい人にとったら、机の上で、そこに作品はあるんですけども手に取れるように、離れた所でモニター上でも見れるというのも試してみたいと思っている。

委員

コロナ禍の中、工夫されているが、来館者が減少して来年どうなるのか非常に心配。最近の傾向として美術館に来られる方が少なくなっている。アフターコロナとなったところでどういう活動をされるのか、県立美術館が一つの指針になる。

収集費を確保して独自コレクションを維持していくことをお願いしたい。

委員

アートイベントサポーターが34名活動されているとのことだが、解説については、ほぼ先生がお一人でやられて負担ではないか。今後解説ボランティアは育成していかないのか。

クラウドファンディングはアールブリュットだからこういうことが出来るのか、興味がわいているところ。恒常的に通常の収集でも出来るのか。また、全国的にはどうか。

事務局

アートイベントサポーターの活動は、現在対面での活動は休止となっている。元保育士の先生方を中心に、遠足見守りサポーターとして修学前の子供たちを見守っていただいている

ユニバーサル展では、当事者の方々に一緒に活動していただいている。メールやZoomで関係を保ってきており、12月の事業開催に向けてミーティングを行い活動を広げていきたい。

15年前に解説ボランティアを置き、研修をしたことがあったが、美術館の展示は作品が変わって行くため、その都度勉強していくのが難しい。そのようなことからイベントサポーターとしてお願いしている。

教員ということで、教育普及担当の専任として、担当の学芸員や普及チーム

	<p>と相談しながらやらせていただいている。学校との美術館をつなげる役目をさせていただいている。</p>
委員	<p>コロナ禍の中、いろいろと考えて運営されているのがわかった。</p> <p>デジタルアーカイブや教材配布などで子供たちと美術館との距離が近づいているのを感じる。</p> <p>学校では iPad を使ってインターネットなどによる授業を取り入れている。授業で美術館のことを取り入れられたらいいなと感じた。子供のきっかけの幅が広がっている。教育者としてこうしたきっかけを逃さないよう取り組んでいきたい。</p>